

カトリック香里教会 復活節第四主日(世界召命祈願の日) 2021年4月25日

〔そのとき、イエスは言われた。〕「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。—— 彼は雇い人で、羊のことを心にかけないからである。わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」ヨハネ 10 章

わたしの羊は私を知っている

今日は良い羊飼いの日曜日として知られています。なぜなら、教会暦では毎年この第 4 日曜日の福音は常に、イエスが自分を「良い羊飼い」と語っているヨハネの第 10 章から取られているからです。今日の箇所では、イエスは自分の人生における自己犠牲という点を強調しています。「良い羊飼いは羊のために命を捨てる」。

神は通常、ブドウ園の園丁や農夫として描かれています。何よりも、彼の民を導き、保護し、養う羊飼いとして描かれています。しかし、今日の福音では、「良い羊飼い」は傷ついた羊を優しくいたわる人ではなく、自分の命を犠牲にしても群れを危険にさらすいかなるものにも立ち向かう戦士です。イエスは、自分の愛を受け入れなかった人がまだたくさんいることを知っています。「私にはこの囲いに入っていないほかの羊たちもいる」。

しかし、彼のような真の羊飼いは、羊を 1 匹たりとも失うことを決してあきらめません。良い羊飼いは、他の多くの羊が彼に聞き従うようになることを深く望んでいます。究極の目標は、「羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる」ことであり、全世界が 1 つに統合されることなのです。

しかし、善き羊飼いであるイエスを拒否する人はまだたくさんいます。「世が私たちが知らないのは、御父を知らなかったからである」(1 ヨハネ 3:1)。これは、理解するのが難しく、受け入れるのはさらに難しくても、事実として受け入れることを学ぶ必要があるものです。実際、私たちが羊飼いの足跡にどれほど厳密に従っていても、彼に従えば従うほど、拒絶され、攻撃される可能性が高くなります。さらに、クリスチャンはしばしば自分たちの間で分裂していると主張する人も、とてもたくさんいます。ですから、すべての人が一人の羊飼いに従い、一つの群れを形成する必要があります。そうでなければ、キリストの愛がイエスの僕たちの間で欠けているのに、どうしてキリストの愛を証しすることができるのでしょうか。

今日は「召命祈願の日曜日」です。この日、私たちは特に、まず、教会がその働きをするのに必要な指導者と与えられるように祈るよう求められています。現時点では、特に日本では、そのようなリーダーが非常に不足していることを私たちは知っています。しかし、私たちの教会に必要な指導者と与えられることを真剣に祈ることはできますが、他の人がその呼びかけに答えることができるように祈る傾向があるかもしれません。私たちは自分たちが含まれているとは思っていません。より多くの若者が司祭や修道者として志願することを切に願うかもしれませんが、明らかに自分たち自身の子供たちを排除します。おそらく、私たち一人一人が自分自身に問いかけなければなりません。自分は何をしているか？ 自分に何ができるのか？ と。私たち全員が主の中で一つになり、教会のより多くの指導者たちと団結しますように。

2021年4月25日 クラレチアン宣教会助祭 パウロ・ニュー・

